

環境負荷低減に向けた 緑肥を活用した水稻栽培の取組

京都府南丹農業改良普及センター
令和6年5月

背景・問題

一発型肥料のプラスチック殻等は環境への負荷が大きく対策が必要

- ・水稻ではプラスチックで被覆された一発型肥料が広く普及
- ⇒しかし、①プラスチックは環境中で分解されにくい
- ②プラスチック殻が河川へ流出し景観に悪い
- ③川や海で細かくなり、動物が食べる

環境負荷
が大きい

対策

緑肥(ヘアリーベッチ)を活用した水稻栽培

プラスチック被覆肥料の代替

- ・マメ科緑肥
- ⇒根粒菌による窒素固定することで肥料の代わりとなる窒素分を補給

水稻栽培に活用するために

- ①水稻作付期間外(秋～春)に生育
- ②窒素を効率的に固定できる
- ③分解が早い(肥料として早く利用)
- ⇒ヘアリーベッチは条件を満たす

これからの展開

プラスチック殻の流出を減らした環境にやさしい水稻栽培を目指す

京丹波町の事例

	9月			10月			...	3月			4月			5月			6月		
	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
水田			収穫										入水	田植					
ヘアリーベッチ				は種						すきこみ									



*4/8ヘアリーベッチほ場

令和5年9月14日緑肥(ヘアリーベッチ)は種
4月には3500kg/10a程度の生草重量
およそ7kg/10aの窒素肥料相当分が得られる

施肥量を減らすことができる

- ・プラスチック殻の流出減につながる
- ・コスト削減につながる
- ・収量、品質について現在調査中

今後、現地での研修会を開催予定です。
ご興味のある方は南丹農業改良普及センターまでご連絡ください。(連絡先 0771-62-0665)
ホームページやメール情報サービス(マ・メール)でも情報をお知らせいたします。

マ・メール登録は裏面から↓